

令和5年6月8日

I はじめに

令和5年6月市議会定例会を招集申し上げましたところ、議員の皆様には御出席いただき誠にありがとうございます。

提出いたしました議案をはじめ、市の重要案件の審議につきまして、よろしくお願い申し上げます。

はじめに、我が国の経済情勢については、先月末の内閣府の「月例経済報告」において、今後の先行きといたしまして、雇用・所得環境が改善する下で、緩やかな回復が続くことが期待されていますが、物価上昇等の影響に十分注意する必要がありますとされています。

このような中、政府では、足下の物価高騰などの難局を乗り越え、本格的な経済回復、そして新たな経済成長の軌道に乗せていくため、「物価高克服・経済再生実現のための総合経済対策」やエネルギー・食料品等の物価高克服に向けた追加策など、迅速かつ着実に実行していくこととしております。

本市におきましても、国の総合対策等に基づく「低所得の子育て世帯に対する子育て世帯生活支援特別給付金」の支給のほか、新型コロナウイルス感染症対策として、ワクチン接種の期間延長に伴う接種体制の確保に係る経費と合わせた所要の経費を計上した補正予算につきまして、速やかな事務手続に着手する必要がありますことから、先月、専決処分させていただきました。

次に、本定例会に提出した議案のうち、主なものについて申し上げます。

まず、「令和5年度長野市一般会計補正予算」においては、地方創生臨時交付金を活用し、電力・ガス・食料品等の価格高騰による家計負担を軽減するため、住民税非課税世帯等に対し、1世帯当たり3万円を支給するための経費を計上しております。

また、デジタルを活用した行政情報の提供や利便性の向上を図る新たな取組として、妊娠・出産から子育てまでの世帯に対する支援のため、親子のライフイベントに合わせたサービス情報等を提供するカレンダーアプリの構築や、スポーツ施設などの公共施設利用者の利便性向上等を目指した公共施設の予約や施錠管理等のスマート化のほか、文化財のデータベース整備とそれを活用した観光デジタルコンテンツの構築など、国のデジタル田園都市国家構想交付金を

活用した事業に要する経費を計上しております。

このほか、本年5月7日から8日にかけて市内南西部を中心に発生しました大雨により被災した道路、河川及び農林業施設の復旧など、応急復旧を含めた災害復旧に要する経費につきましても計上いたしました。

補正予算以外の条例関係といたしましては、福祉医療費給付事業につきまして、子どもの福祉医療費における対象範囲を、これまでの「中学校卒業まで」から「18歳年度末まで」に拡大するための条例改正案を提出しており、子育て支援の更なる推進を図ってまいります。拡大に向けまして、まずは、受給者証の発行を電子申請にて受け付け、令和6年1月診療分から実施できるよう準備を進めてまいります。

また、長野駅東口公園における「Park-PFI」による軽飲食施設の設置につきまして、本年1月に実施したサウンディング型市場調査で得た結果を基に、事業者の選定委員会設置に伴う条例改正案を提出しております。今後、公園利用者の利便性と快適性の向上等につながる施設の設置に向けて、事業者の公募・選定を進めてまいります。

このほか、城山公園再整備の一環として「ふれあいの森ゾーン」の少年科学センターを「(仮称)ながのこども館」に再整備するための工事請負契約の締結に係る議案を提出しております。議会の御決定の上、今年度末の完成を目指して工事を進めてまいりたいと考えております。

II 市の動向

次に、本年度の主な施策・事業の動向について申し上げます。

本年度の施策・事業の実施に当たりましては、予算編成方針に掲げた「未来へのチャレンジと変化の兆し」を基本方針として、未来を見据えた新たな取組に果敢にチャレンジしつつ、併せて市民の皆様に「変化の兆し」を日々の暮らしの中で実感していただけるよう施策を展開していくとともに、物価高騰などへの対応につきましても、国・県と連携を密にしながら、引き続き、全庁一丸となって進めてまいります。

まず、新型コロナウイルス感染症対策であります。5月8日から感染症法上の位置づけが「2類相当」から「5類」に変更され、「個人の選択を尊重し、市民の皆様への自主的な取組をベースとしたもの」へと大きく変わりました。

この変更に伴い、長野市新型コロナウイルス感染症対策本部を廃止し、同日、

市民の皆様には重症化リスクや場面・場所等に応じた基本的な感染防止対策の継続をお願いするとともに、市として市内経済や市民生活に活気を取り戻せるよう取り組む、とのメッセージを私から発出いたしました。

また、感染状況の把握につきましても、毎日の公表から、定点医療機関からの報告による週1回の長野市感染症情報の公表に変更され、さらに、医療提供体制につきましても、幅広い医療機関で対応する通常の体制へと段階的に移行することとされました。

今後も県と連携し、医療体制の拡充のため、外来対応医療機関の拡充や入院病床の確保に努めてまいります。

また、市民の皆様が相談できる環境を維持するため、市保健所の受診・相談センターを9月末まで継続いたします。

このほか、国において、新型コロナウイルスの接種期間が令和6年3月31日まで延長され、65歳以上の高齢者や基礎疾患を有する方、医療従事者等を対象とした「令和5年春開始接種」が5月8日から8月末まで実施され、また、初回接種を完了した5歳以上のすべての方を対象とした「令和5年秋開始接種」が9月以降に実施される予定となっており、医療機関等の御協力の下、引き続き接種体制の確保に努めてまいります。

次に、「令和元年東日本台風災害からの復興」につきましては、本年3月に長沼保育園の新園舎が長沼小学校のグラウンド内に完成いたしました。県産材の木材が多く使われ、木の香りやぬくもりが感じられる開放的で明るい空間の中で、子どもたちが伸び伸びと園生活を楽しんでいると報告を受けております。

また、(仮称)豊野防災交流センターにつきましては、本年5月に本体工事に着工し、令和6年8月オープンに向けて事業を進めているところであります。

このほか、流域全体で進める信濃川水系緊急治水対策プロジェクトにつきましては、立ヶ花狭窄部から村山橋間の堤防強化区間において、千曲川右岸と左岸で国による工事が進められておりますが、地域の皆様が不安を感じることはないよう、引き続き、国と調整を図ってまいります。

次に、消防・救急体制につきましては、年間2万件以上の119番通報を受信する消防指令システムが更新を迎えることから、本年度は実施設計に着手いたしますが、6月5日、隣接する須坂市から、指令業務の共同運用について協議の申し入れがありましたため、現在検討を進めております。

また、昨年の救急件数が過去最高を記録し、今後も増加が見込まれていることから、より迅速な救急搬送と救命率の向上につなげるため、救急車の効果的な運用について検証してまいります。

移住・定住の促進につきましては、本年4月に移住推進課を設置するとともに

に、移住に関わる庁内関係部局に移住推進担当の兼務職員を配置し、子育てや仕事、農業など、移住の多様なニーズに応じた専門的な相談ができるよう体制を整えましたことから、今後、庁内の横断的連携を図り、更なる移住を推進してまいります。

子育て支援の推進につきましては、食費等の物価高騰に直面し、その影響を特に受けている低所得の子育て世帯の生活支援を行う観点から、低所得の子育て世帯生活支援特別給付金として、児童1人当たり5万円を支給いたします。

支給対象となる方のうち、令和5年3月分児童扶養手当受給世帯などの皆様へは5月31日に申請不要のプッシュ型で支給しておりますが、家計急変などにより支給対象となる方は申請が必要となることから、広報ながのや市ホームページなどで周知を図っております。

保育園における保育環境の改善といたしましては、保護者及び保育士の負担軽減を図るため、公立園におきましては、使用済みオムツを園で処分し、持ち帰りを廃止する方向で進めております。

課題等を把握するため、まずは、モデル園において、6月から使用済みオムツの自園処理を開始いたしました。今後、モデル園の状況を見ながら、公立全園での実施に向けて検討してまいります。

登校支援につきましては、不登校児童・生徒が増加傾向にありますことから、一人ひとりに寄り添った支援を行う新たな教育支援センター「SaSaLAND」の令和6年4月の開設に向けて準備をしているところです。

本年4月から七二会地区住民自治協議会や不登校親の会、信州大学教育学部などで構成するSaSaサポーターミーティングを開催しており、開設に向け、オンライン活動などによる人と関わる機会の創出や、保護者支援について検討してまいります。

新産業創造の推進につきましては、昨年度までの取組をもとにフードテック、宇宙利用産業、バイオマス産業の3つを戦略テーマに設定し、未来の産業基盤の強化に向けて新たな産業の創出につながる取組を進めてまいります。

新たな産業が創り出された結果、市内経済の活性化につながることで税収も増え、更なる行政サービスの充実と市民の暮らしの向上が図られるという好循環を生み出す仕組みをつくることが重要であると考えております。

引き続き、新産業を支える新たな担い手の創出や産学官連携による地域人材の育成なども含めて、中長期的な視点を持ちながら、新たな取組にチャレンジしてまいります。

企業誘致につきましては、4月17日に長野県とともに日本アイ・ビー・エム株式会社との立地協定を締結いたしました。この協定は、日本アイ・ビー・エムの子会社である日本アイ・ビー・エムデジタルサービス株式会社が本市に新たな事業所「IBM 地域DXセンター」を開設するに当たり、相互の連携・協力について確認したものです。

今後、協定に基づき、デジタル人材の育成や地域DXの推進などの施策に御協力をいただける体制ができたことから、本市に集積するICT企業の皆様と共に創造する「共創」を進め、本市経済の振興につながることを期待しております。

また、本市の経済活性化の基盤となる産業用地の確保につきましては、既存工業用地の有効活用や将来的な産業団地開発に向け、(仮称)産業立地ビジョンを策定してまいります。産業用地の確保に当たりましては、土地利用規制など課題が多くありますが、農業政策や都市計画との調整など庁内横断的に検討しながら、本市が目指すべき産業集積や整備目標を設定し、候補エリアの選定も含めて取り組んでまいりたいと考えております。

以上、本年度の主な施策・事業の動向について申し上げます。

ただいま申し上げます施策・事業のほか、本年度に実施してまいります様々な施策・事業を着実に推進し、本市の豊かな自然環境と地域ごとの様々な特性を活かした農林業や商工業の更なる振興と、長野市全体の地域経済の活性化を図ってまいります。

Ⅲ 令和4年度決算見込み

続きまして、本市の令和4年度一般会計決算見込みについて申し上げます。

はじめに歳入についてですが、基幹収入である市税は、個人所得の増加に伴う個人市民税の増収や、新型コロナウイルス感染症に係る軽減措置の終了等による固定資産税の増収などにより、市税全体では前年度を14億円上回る597億円となる見通しです。

このほか、国・県支出金につきましては、新型コロナウイルス感染症対策や令和元年東日本台風災害の災害復旧に係る補助金等の減などにより、前年度に対し81億円の減少となる見込みで、歳入総額では、前年度に対し54億円減の1,705億円を見込んでおります。

次に歳出につきましては、新型コロナウイルス感染症対策の子育て特別給付

金の皆減や令和元年東日本台風災害の災害復旧費の減などにより、前年度に対し49億円減の1,652億円を見込んでおります。

この歳入歳出の見込みから、令和4年度の実質収支は、35億円を見込んでおり、昨年度に引き続き財政調整基金の取崩しを行わずに決算を締めることができる見込みであります。

IV むすび

さて、最後に、先月お示しいたしました「長野市こども“のびのび”ビジョン」について申し上げます。

市長就任以降、これまで「子どもたちの夢を応援するまち」の実現を目指し、子ども・子育て支援や教育の施策として、こども総合支援センター「あのえつと」を設置し、また、放課後子ども総合プランの充実のための「ながのこども財団」を設立したほか、今年度からは、先ほど申し上げました教育支援センター「SaSaLAND」の整備に向けた準備を進めております。

これらの施策を進める上で、私が大切にしていることは、主役である子どもたちの主体性を尊重し、子どもたちの育ちを支える保護者の皆様の目線に立って考え、施策を展開するということです。

今回、長野市全体を俯瞰した大きな視点として、子どもが伸び伸びと遊び、学び、育つための場づくりや環境づくりを目指すための「長野市こども“のびのび”ビジョン」をお示しいたしました。

ビジョン実現のため、まず、子どもの権利をしっかりと守り、大人が支える環境をつくるため、子どもの権利を守る条例について、議員の皆様と協力して制定を目指していきたいと考えております。

また、長野市全体で、学校の環境や機能、子どもプラザの充実を図ってまいります。

さらに、子どもたちが伸び伸び、わくわく過ごせる場所として、市内にはいくつかの大きな公園がありますが、子どもたちや家族がもっと行ってみたいと思える場所、くつろげる場所になるよう公園の機能を充実させ、魅力を高めていきたいと考えております。

このビジョンの下、市内全体で子育てしやすいまち、「健幸増進都市」につながるよう、暮らしに安らぎとうるおいを感じる長野市をつくってまいります。

併せまして、青木島小学校を中心とした子育て機能の充実や地域課題を一体的・総合的に解決する「青木島こども未来プラン(案)」につきましても、引き続き関係者への説明と地域の皆様への周知を図り、幅広く御意見をお聞きしな

がら、子どもたちが安全で伸び伸びと過ごせ、より住みよい地域となるよう取り組んでまいります。

議員の皆様、また、市民の皆様には市政運営に引き続きのお力添えを賜りますようお願い申し上げます。

本定例会に提出いたしました案件は、「令和5年度長野市一般会計補正予算」など議案15件、承認3件、報告14件であります。

詳細につきましては、西澤副市長から説明申し上げますので、十分な御審議をいただき、御決定を賜りますようお願い申し上げます。